

<p>校長室だより</p> <h1 style="text-align: center;">共学共高</h1>	<p>第 28 号</p>	<p>令和4年9月1日発行</p> <p>発行責任者 白梅学園高等学校長 武内 彰</p>
---	-----------------------	---

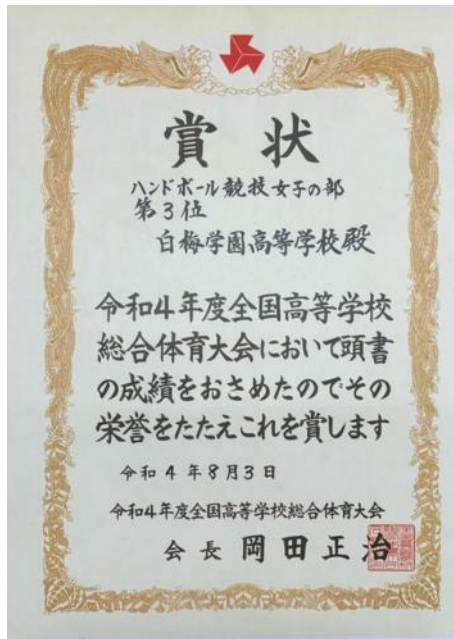
第二学期始業式～輝け！白梅生

9月1日（木）、まだ残暑が厳しい日ではあるが、第二学期始業式を迎えた。

本校では、コロナ対応のため、集会は一つの学年までとしているので、始業式もオンラインで各教室へ同時配信する形式で執り行った。校長講話、生活指導部長講話、養護教諭講話、そして表彰という流れで行った。生徒たちの表情を見ることができないのはデメリットではあるが、通常の講話とは異なり、スライドを使用して視覚に訴えながら話をするができることをメリットとして、校長講話を行うようにしている。

私から全校生徒へお話したのは、1 夏の振り返り、2 二学期の教育活動について、3 みなさんへのメッセージの3点である。夏期講習の実施状況は、3年生217講座、2年生139講座、1年生72講座であった。これだけの講座数を開講している学校は、私の経験ではさほど多くない。むしろ稀である。通常の授業とは異なり、3年生の進路対策がメインではあるが、参加している生徒たちの学びが深まったのは言うまでもないことである。

部活動の活躍も目覚ましいものがあった。ハンドボール部はインターハイで第3位入賞。優秀選手も本校から2名選ばれた。陸上競技部の2年生Sさんも、七種競技で第3位入賞。全国大会で上位入賞することの大変さは、容易に想像がつく。本人の努力はもちろん、顧問や家族、友人等の支援が一つに相まったの成果だと言えよう。吹奏楽部は、10年連続で東京都コンクール金賞を受賞したが、その後、都代表として10月9日に開催される東日本大会の都代表に選出された。これは、本校にとって9年ぶりの快挙である。部長のHさんが部を代表して全校生徒へ報告と感謝の気持ちを表してくれたのも私にとって嬉しいことであった。「始業式・終業式・全校集会は教職員と生徒とで創っていくもの」であってほしいと考えているからだ。合唱部は、いわゆるNコン（NHK全国学校音楽コンクール東京都予選において、金賞を受賞し、本選へ進み、優良賞を受賞した。決して大人数の部ではないが、こちらも素晴らしい活躍であった。本日放課後に校内巡回していると、合唱部は2か所に分かれて練習していたが、美しいハーモニーを奏でていた。廊下からガラス越しに見つめる私に、会釈してくれる部員たちの態度が嬉しい。



今夏は、バスケットボール部・ソフトテニス部・バドミントン部で合同合宿を行った。総勢 58 名で新潟県妙高市を訪れ、3泊4日を過ごした。2年生の部員に聞いたところ、最後の宿泊行事は中学1年生の時でした、と答えてくれた。私にとっても数年ぶりの宿泊を伴う引率であった。現地でコロナ陽性者やその疑いが生じた場合のことを想定して臨んだ。本人たちはもちろん、御家庭の協力もあって、体調不良者を1名も出すことなく、無事に帰京できたことに心から安堵した。

二学期には、白梅祭（文化祭）、修学旅行などの大きな学校行事がある。白梅祭は、中学生とその保護者及び在校生保護者に公開して実施する予定である。少しずつ準備を進めて

いる様子が伺えるが、無事に開催できることを願わずにはいられない。修学旅行も国内ではあるが、3 か所に分かれて4泊5日での実施となる。危機管理の要諦ではあるが、「悲観的に準備して楽観的に対処する」ことが大切だと考える。生徒・教職員・御家庭の協力体制の下、全員無事に帰宅することができれば、学校関係者にとっても大きな自信となる。

基本的な感染防止対策を行いながら、通常の教育活動が1日でも長く継続できるようにしたい、これが校長としての本音である。どこの学校の校長も、教職員も、生徒も保護者もおそらく同じ思いであろう。ただ、校内でクラスターが発生するなど、感染拡大を防止するためには、活動を停止しなければならない場合もある。そうならないことを祈りつつ、これから1日1日を過ごすことになる。

結びに、私が全校生徒へ送ったメッセージは、「どういう大人と出会うかによって、その人の人生はよりよいものとなる」「私たち白梅学園の教職員は、そういう大人の一人になりたい、と思っている」「相談事や悩み事などがあれば、いつでも遠慮なく声をかけてほしい」「すぐに解決はできないかもしれないが、話を聴くことはできる」といったものであった。二学期も白梅生たちの輝く姿を見られることを楽しみにしている。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)